

シリーズ 「補綴装置および歯の延命のために」
Part1 破折歯根の治療とその予防策

松村 英雄^a，佐藤 亨^b

Series “For keeping tooth and a dental prosthesis longer”
Part1: The Treatments and Preventive Measures of Fractured Root

Hideo Matsumura, DDS, PhD^a and Toru Sato, DDS, PhD^b

接着材料と技術の進歩に伴い、歯質の接着、補綴装置の装着、補修など、さまざまな分野に接着技術が導入されている。歯根破折は歯の保存が困難な症例の代表格であるが、接着材料の応用により、歯の延命を図る試みがあり、広く海外にも紹介されている。公益社団法人日本補綴歯科学会の第122回学術大会（2013年5月19日：福岡）において、表題のシンポジウムが開催された。当日は当該分野のスペシャリストである3名の研究者をシンポジストとして招聘し、活発な質疑応答があり、意見交換も行われた。そこで、本号では、シンポジウムの内容について各シンポジストから原稿をいただき、会員に対し「垂直破折歯根の接着再植治療」の現状を広く紹介することを企図した。シンポジウムの抄録については以下に概略を示すが、本号への寄稿はシンポジウムの内容が保存可、かつ何時でも参照可能な形でまとめられている。

北海道大学の菅谷 勉准教授は「垂直歯根破折の実態と接着治療の理論的背景」と題し、歯科保存学の観点から破折の病態、炎症の原因、接着治療の術式と臨床成績について報告を行った。その結果、歯周組織が健全に保たれた場合、破折歯に対する接着治療の経過は良好であることを示した。このことを含め、保存の立場から、接着材料と生体組織の界面について、わかりやすく解説されていた。

接着歯冠修復を永年手がけている眞坂信夫会員は「垂直破折歯根の診断、臨床術式、治療成績」につい

て、多くの臨床例を供覧し、長期成績についての報告を行った。破折歯の接着保存法は、近年開発された診断、治療機器との併用により、より確実性が増したとこのことを実例とともに示した。

大阪大学の峯 篤史助教は「“2013年における”歯根破折防止策の文献的考察」とのテーマで、現在進行中の研究を含め、第三者的視点から、歯根破折の防止についての文献紹介と考察を行った。その結果、支台築造の臨床において「昔の教科書にはさる記載があるが、今はそうでもないのではないか」と疑問を抱くような事項が、実際に「そのことについては接着材料の普及とともに、現代風に書き換えられるべき時期となった」という例も少なからずあることを示す結果となった。

今回のシンポジウムにおいて、器材と術式の選択、適用症例の検討等、いくつかの留意点を踏まえた上で施術された場合、垂直破折歯根の接着再植治療は、良好な経過を示す症例が多いことが示された。

著者連絡先：松村 英雄
〒101-8310
東京都千代田区神田駿河台1-8-13
日本大学歯学部 歯科補綴学第Ⅲ講座
Tel: 03-3219-8135
Fax: 03-3219-8351
E-mail: matsumura.hideo@nihon-u.ac.jp

^a 日本大学歯学部歯科補綴学第Ⅲ講座

^b 東京歯科大学クラウンブリッジ補綴学講座

^a Department of Fixed Prosthodontics, Nihon University School of Dentistry

^b Department of Crown and Bridge Prosthodontics, Tokyo Dental College